

村の英雄が一転疫病神に…

## 敗戦と同時に日本人はアメリカ万歳？ 多くの日本人が「裏切った」は本当か

「親爺、これ見た方がいい、感動ものだ」と息子からポンと渡された本がこの「永遠の0(ゼロ)」(百田尚樹著、講談社文庫)。著者のデビュー作で2006年8月に出版され、2009年7月にこの文庫本が発売されたとあります。文庫本とはいえ600頁もありますから「長編」なのですが、面白くて一気に二日間で読破してしまいました。

ひよんな事から孫兄弟が祖父の足跡をたどるというストーリーで、ゼロというのはあの「ゼロ戦」の事です。どうやら祖父は極めて優秀なパイロット特攻隊員だったようで、生き残りの僅かな手がかりを求めて調査をするうちに、最後にビックリするような結末を迎えるのです。涙無しには見られない感動巨編でこのまま映画化しても良さそうです。デビュー作とは思えない完成度の高さだと思います。

正直、当時の海軍がいかに酷かったか、特攻の残虐さが強く描写されていますのでリベラル左翼が見たら大喜びしそうな内容なのですが、今回はこの本のストーリーを紹介するのではなくて、以下の部分の描写で気になった事がありますので、お時間のある方、ちょっとおつきあい下さい。祖父を知る元兵隊さんの一人が敗戦当時のことを語っている部分です。



「永遠のゼロ」は定価876円(税別)で全国の書店で好評発売中です。

戦争が終わって村に帰ると、村の人々のわしを見る目が変わっていた。穢れたものでも見るような目で眺め、誰もわしに近寄ろうとはしなかった。村人たちは陰でわしのことを「あいつは戦犯じゃ」と言っていた。ある日、川の土手を歩いていると、村の子供たちが「戦犯が歩きよる」と言ってわしに向かって石を投げた。

悔しくてたまらなかった。昨日まで「鬼畜米英」と言っていた連中は一転して「アメリカ万歳」「民主主義万歳」と言っていた。村の英雄だったわしは村の疫病神になっていたのだ。父は亡くなっていて、わしは跡を継いだ兄の家の離れで加江と暮らしていたが、兄は明らかにわしを厄介者扱いた。

誰かが流したデマだろうが、真珠湾攻撃に参加したパイロットは戦犯として絞首刑になるという噂が広まった。戦犯を匿った者や村も罰せられると。それを聞いたわしは腹をくくった。

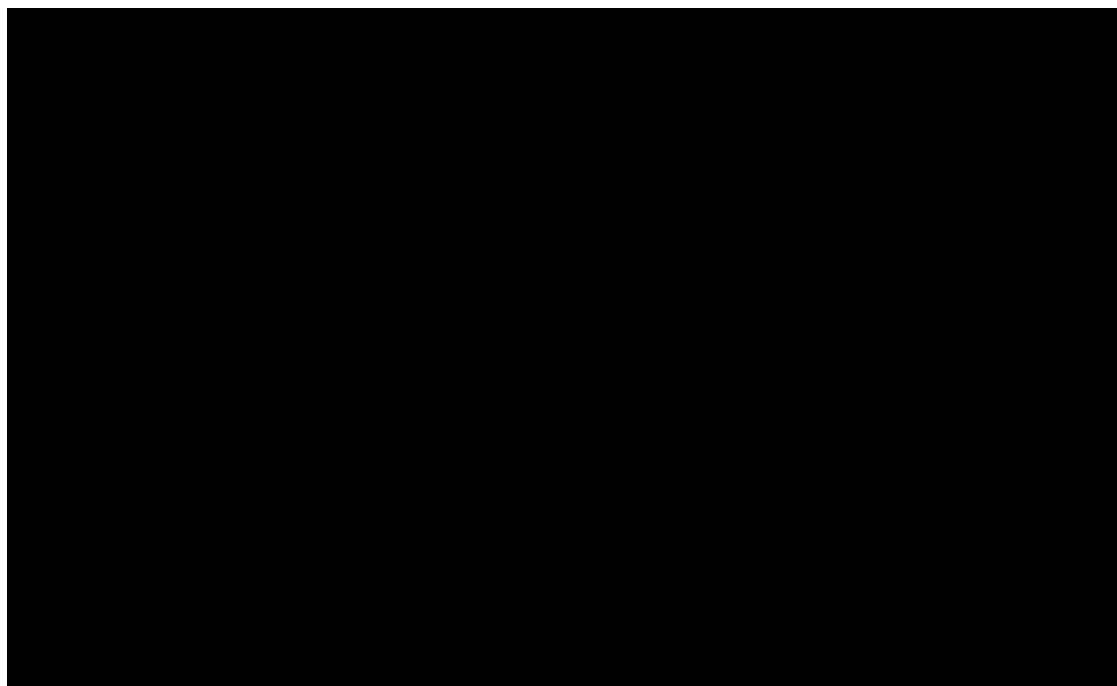
そんなある日、兄が五升の米を饅別代わりにくれ、これで東京へ逃げろと言った。体のいい追い出しだった。わしは加江を連れて故郷を後にした。

東京へ出たのは十月の終わりだった。一面が焼け野原だった。わしと加江はトタンで囲ったバラックで寝泊まりした。毎日仕事を捜したが、何もなかった。五升の米はまもなく底をつき、わしは日雇い人夫のようなことをして何とか喰いつないだ。

あの頃は本当に苦しかった。街には進駐軍の兵士がいたるところにいた。[アメリカ](#)兵は日本の女を連れていた。わずか三カ月前まで米軍の戦闘機と戦っていたのが、嘘のようだった。

あの時、何とか食べることが出来たのは、加江が「裁縫出来る人求む」という貼り紙を見つけて、小さな服屋にわしと一緒に住み込みで雇って貰えたからだ。二人は二畳ほどの物置で暮らしたが、それまでバラックで寝泊まりしていたことを思うと天国だった。

翌年、わしは海軍の元上官のついで水道局の臨時職員に雇って貰えた。しかし一年後、公職追放にかかって首になった。十一年にわたる海軍生活でわしの最終階級は中尉だったが、それで職業軍人とみなされたのだ。わしが仕事を失ったことを知った加江は、わしを慰めてくれた。



この映画をNHKで何回も放送させるのが私の「目標」です。  
左翼がどんな顔をするか見てみたいものです。

「職業軍人とは何とひどい言葉でしょう。日本のために命懸けで戦ってきた人を、まるで銭儲けで戦ったように言うのは、絶対に許せません」

あの時の加江の言葉ほど嬉しかったものはない。わしはこの女のために生きると決意した。

わしは自分で商売することを決めた。様々な商売に手を出した。何度もだまされ、何度も裏切られた。戦後の人々は戦前の人々とはまるで違う人たちだった。人にだまされた夜、戦争で死んだ戦友たちを思い出し、彼らの方が幸せかもしれないと思ったこともあった。こんな日本を見なくてすんだ彼らの幸運を羨んだ。

しかしそれは終戦直後の混乱と貧困による一時的なものだった。多くの日本人には人を哀れむ心があり、暖かい心を持っている。自分が生きるのでさえ大変な時にも人を助けようとする人がいた。だからこそ、わたしたち夫婦もあの悲惨な時代を生き延びることが出来たのだと思う。東京に小さいながらもビルを持てたのも多くの人に助けられたからだ。

本当に日本人が変わってしまったのはもつとずっと後のことだ。日本は民主主義の国となり、平和な社会を持った。高度経済成長を迎え、人々は自由と豊かさを謳歌した。しかしその陰で大事なものを失った。戦後の民主主義と繁栄は日本人から「道徳」を奪った一と思う。

今、街には、自分さえよければいいという人間たちが溢れている。六十年前はそうではなかった。

わしは、少し長く生き過ぎたようだ。 (永遠のゼロ、P355～P358)

### 日本が誇った「戦艦大和」の出航も事実上の特攻でした

私は「凧として愛」をこの数ヶ月、おすすめ映画としてリンクを貼って紹介してきましたが、この中にもオープニングナレーションで「多くの日本人が裏切った」、故・名越二荒之助氏(なごしふたらのすけ)の「僅かの中にコロッとひっくり返ってしまった。そこに日本人の軽薄さというのですかね～云々」というコメントが出てきます(動画の1分55秒くらいから)。

で、私はGHQの宣伝工作がはじまり、全国の新聞で「太平洋戦争史」が始まったのが昭和20年の12月8日から(10回連載)、NHKラジオで「真相はこうだ」が昭和20年の12月9日から(10回連続)ですので、この報道で国民の間に「悪いのは連合国ではなくて日本の軍隊だった」という認識が広がったのだと思ってきました。

ところが、この「永遠のゼロ」で描写されているのは、それ以前で既に村人の意識がひっくり返っていたことが判ります。五升の米を持って村を出て東京に着いたのが十月の終わり、という記述があります。GHQのマスメディアへの検閲は9月から始まりましたが、連載等が始まる前から日本人は心変わりしていたのでしょうか？

昭和天皇の「玉音放送」を涙して聞いた生き残った当時の日本国民は、僅か一、二ヶ月で洗脳され、戦地で戦った「兵隊さん」をこのような白い眼で迎えたのでしょうか？。どなたか詳しい方、情報提供をお願いします。そういえば映画「ランボー」もベトナム帰還兵を冷たい目で迎えたアメリカ国民に「怒りが爆発」する内容でしたね。

## これが正しい歴史、日本が好きな日本人は必見！

- ニコ動画版 凧として愛 [ニコ1/3](#) [2/3](#) [3/3](#)
- you tube版 凧として愛 [1](#) [2](#) [3](#) [4](#) [5](#) [6](#) [7](#)
- 誇り～伝えよう日本のあゆみ～ [1/3](#) [2/3](#) [3/3](#)
- 日本の童謡をいつまでも ふるさと—JAPAN
- 日本がアジアに残した功績
- 真実はどこに・・・

カテゴリ: 政治も フォルダ: 指定なし   

コメント(23)

タグ: 永遠のゼロ 百田尚樹 講談社文庫 零戦 特攻 靖国神社 凧として愛 戦艦大和

コメント(23)

コメントを書く場合はログインしてください。



Commented by **花うさぎさん**  
・イベントガイド

2009/10/31 08:40

[台湾研究フォーラム](#) 第128回定例会

日時平成21年11月7日(土) 18時00分～20時00分(閉会後に懇親会)

2009/10/31 08:42

場所文京区民センター 2-A 会議室

(東京都文京区本郷4-15-14 TEL 03-3814-6731 / 文京シビックのはす向かい)都  
営地下鉄「春日」駅 徒歩1分、東京メトロ「後楽園」駅 徒歩1分、JR「水道橋」駅 徒歩10  
分

内容

講師:藤井巖喜(国際問題アナリスト)

演題:無制限戦争時代における台湾の地位 - グローバル地政学から見た台湾独立

参加費講演会 会員 500円 一般 1,000円

懇親会 3,500円(学生 1,000円) ※ 会場付近にて

お申込

※ 11月6日締め切り

MAIL taiwan\_kenkyu\_forum@yahoo.co.jp FAX 03-3868-2101

※ 当日、『NHK捏造事件と無制限戦争の時代』先行発売会 開催



Commented by 花うさぎさん

・イベントガイド

NHK「JAPANデビュー」に抗議する街宣行動(11/1・3・7)

日時平成21年11月1日(日)、3日(火・祝)、7日(土)

13時00分～16時00分

内容代々木公園 けやき並木入口 集合

※ 雨天決行!

※ プラカード、幟、旗等のご持参 大歓迎!

主催「NHK『JAPANデビュー』を考える国民の会、[日本文化チャンネル桜](#) 二千人委員会  
有志の会ご連絡先 [日本文化チャンネル桜](#) 二千人委員会 有志の会 TEL 03-6419-3900

Commented by nogikuchiさん

花うさぎさんの質問の趣旨とはちがうでしょうか・・・

&gt;連載等が始まる前から日本人は心変わりしていたのでしょうか?

心変わりではないと思います。もともと日本人はそのようなものでしょう(=節操がない)。  
勝てば「賠償金をとれ。領土をとれ。まだ少ない」と暴動を起こしますし、負ければ「腹を切  
れ。恥を知れ」と石を投げ込みます。それが日本人です。

&gt;どなたか詳しい方、情報提供をお願いします。

情報提供を待つまでもないと思います。

例えば、東條首相が更迭後にどんな待遇を与えられたか。敗戦後にどういう非難を受け  
たか。[山田風太郎](#)の日記などはお読みでしょう。おそらく、花うさぎさんの驚きは、都市部の大衆に関しては映像や文献が氾濫しているの  
に、田舎や農村に関する情報が少ないことに起因しているのでしょう。田舎の者は、もっと節操がないですよ。恥ずかしいことではないから、堂々としたもので  
す。

米国の洗脳は、「軍部＝悪」「日本＝悪」であって、「兵隊＝悪」ではありません。

すべてを米国の洗脳のせいにするのは、それはそれで情けないことだとわたしは思いま  
す。

Commented by 花うさぎさん

To nogikuchiさん こんにちは。

>勝てば「賠償金をとれ。領土をとれ。まだ少ない」と暴動を起こしますし、負ければ「腹を  
切れ。恥を知れ」と石を投げ込みます。それが日本人です。コメント感謝です。拝見してすぐ「日比谷焼き討ち事件」をイメージしました。なるほど、説  
得力があります。

2009/10/31 10:09

2009/10/31 10:46

>例えば、東條首相が更迭後にどんな待遇を与えられたか。敗戦後にどういう非難を受けたか。

2009/10/31 12:39

お孫さんの東條東條由布子さんの話を聞いたことがあります、ウンそうですね。

>田舎の者は、もっと節操がないですよ。

悲しい現実ですね。

>すべてを米国の洗脳のせいにするのは、それはそれで情けないことだとわたしは思います。

なんだかんだいっても戦犯の釈放の嘆願、遺族補償等々であれだけの署名が集まって実現した当時のイメージと、この本の描写にかなりのギャップを抱いたもので、質問しました。

満州に出向いていた慰安婦が九死に一生を得て故郷に帰ったら、村人はその女性が慰安婦と知りつつ暖かく迎えた、という話しも耳にしていたので、尚更でした。

確かに日本人の特性なのかも知れませんね。ありがとうございます。



Commented by **sumirehodo** さん

小説なのでフィクションですからそんなに「当時の人々はそうだったのだから。」と考える必要はないのでは。物語的には戦後も英雄としない方が面白かった、ただそれだけでしょう。(この小説は読んでいませんが)

百人斬りで処刑された方も戦後の日本の暮らして「戦犯だ。」なんて言われたことはないし、子どもの頃近所に先の大戦で中国大陸での戦い、敵を斬ったという方がいましたがみんな「戦争だから」と思いやり非難も何もありませんでした。



Commented by **nogikuchi** さん

>戦犯の釈放の嘆願、遺族補償等々であれだけの署名が集まって実現した  
>村人はその女性が慰安婦と知りつつ暖かく迎えた  
それも日本人ですよ。

2009/10/31 15:44

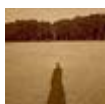
花うさぎさんが引用されてる部分でも、こうありますよ。

- | しかしそれは終戦直後の混乱と貧困による一時的なものだった。
- | 多くの日本人には人を哀れむ心があり、暖かい心を持っていた。
- | 自分が生きるのさえ大変な時にも人を助けようとする人がいた。

私が、刮目し、納得した箇所は、次です。

- | 本当に日本人が変わってしまったのはもっとずっと後のことだ。
- | 戦後の民主主義と繁栄は日本人から「道徳」を奪った——と思う。

たぶん、花うさぎさんにもご賛同いただけると思いますが。



Commented by **makomakomako** さん

こんにちは。

2009/10/31 15:55

戦後、「英雄」から「非国民」呼ばわりされた方はいたようです。  
この本は読んでいませんが、  
内容を憶測するに、  
ちょっと極端な例ではないかと思います。

私は戦後生まれで、  
戦後の状況を実感として味わったことはありませんが、  
元軍人さんとお話する機会も多いです。

皆さん立派な方で、  
地元の方々にも尊敬されています。

2009/10/31 18:03

私の住んでいるところは、  
地方の小さな町ですが・・・

少し古いですが、

[上坂冬子さんの](#)

「忘れられない戦犯と遺族の50年～償いは済んでいる」  
という本が1995年に講談社からでています。  
戦犯がいかにも理不尽な仕打ちを受け、  
遺族は苦しんだか。  
また、その周辺の人たちの温かさもあります。  
実際に戦犯の遺族の方々との交流の中でのレポートですので、  
存在感のある作品です。

また、

反戦平和のサヨクが喜ぶ詩かもしれませんが、  
竹内浩三氏の詩「骨のうたう」は、  
私は、戦後の兵士に対する国民の冷淡さと、  
変節意味していると思います。

その一節、

白い箱にて 故国をながめる  
音もなく なんにもなく  
帰っては きましたけれど  
故国の人のよそよそしさや  
自分の事務や女のみだしなみが大切に  
骨は骨 骨を愛する人もなし  
骨は骨として 勲章をもらい  
高く崇められ ほまれは高し  
なれど 骨はききたかった  
絶大な愛情のひびきをききたかった  
がらがらどんどんと事務と常識が流れ  
故国は発展にいそがしかった  
女は 化粧にいそがしかった

またその対極にある詩が、  
茨木のり子の「わたしが一番きれいだったとき」ではないでしょうか？

その一節

わたしが一番きれいだったとき  
わたしの国は戦争で負けた  
そんな馬鹿なことであるものか  
ブラウスの腕をまくり  
卑屈な町をのし歩いた

わたしが一番きれいだったとき  
ラジオからはジャズが溢れた  
禁煙を破ったときのようにくらくらしながら  
わたしは異国の甘い音楽をむさぼった

「永遠の0」

是非読んでみます。



Commented by [花うさぎ](#) さん  
To [sumirehodo](#)さん [こんばんは](#)。



Commented by **花うさぎさん**

To nogikuchiさん こんにちは。

2009/10/31 18:07

>たぶん、花うさぎさんにもご賛同いただけると思いますが。

はい。この部分のポイントは正にここですね。

先ほど「村田春樹講演会」から帰ってきましたが、日本がまともに戻るには300年かかると云ってました。私的には「その頃は日本自治区に変わっている」と思っていますが？



Commented by **花うさぎさん**

To makomakomakoさん こんにちは。

2009/10/31 18:16

>ちょっと極端な例ではないかと思ます。

それを聞いてちょっと安心しました(^ ^)。

>皆さん立派な方で、  
>地元の方々にも尊敬されています。

何か嬉しいようなほっとします。

>「永遠の0」  
是非読んでみます。

素敵な文章のご紹介、ありがとうございます。

「永遠の0」、天才的パイロットでありながら、上官の命令を拒否してまで「絶対生きて妻の元に戻る」と誓った主人公の意外な結末が本当に感動的です。是非、ご覧になってみて下さい(^ ^)。



Commented by **第一義@運国斎さん**

こんにちは。

2009/10/31 18:46

先ほど中山成彬先生の事務局宛て請願書を送付してきたところですよ。

「永遠のゼロ」非常に素晴らしい内容の作品ですね。ご紹介ありがとうございます。

ランボーが劇中で言う「今度は戦ってもいいのですね」というセリフ、[ベトナム戦争](#)は戦わない、負けるための、軍産複合体を喜ばすための戦争だという意味の痛烈な皮肉のセリフが、印象深いです。

そうやって[ベトナム戦争](#)での反省があるなら大東亜戦争でのB29等爆撃機による一般民衆の大量虐殺や原爆投下と言う重大犯罪にも反省して、顧みて欲しいですね。

無理でしょうが。



Commented by **花うさぎさん**

To yuukokushaさん こんにちは。

2009/10/31 19:30

>先ほど中山成彬先生の事務局宛て請願書を送付してきたところですよ。

おお～ありがとうございます。第一次は今日が締め切りでしたのでセーフですね。

>大東亜戦争でのB29等爆撃機による一般民衆の大量虐殺や原爆投下と言う重大犯罪にも反省して、顧みて欲しいですね。

本当です。明確な国際法違反の一般市民無差別虐殺を我々は消して忘れないでしょう。この後に及んでも正当化するようであれば、それは偽善でしかあり得ません。

日頃、反戦平和を訴えている左翼は[アメリカ](#)を訴えろ！と云いたいですよ。



Commented by **元気 さん**

こんばんは。

2009/10/31 22:29

2009/10/31 22:39

日本人であっても、と考えてはいかがでしょうか。

誰でも欲に弱いです。ましてや、保身のためなら、誰かに責任転嫁しても恥とも思わないかも知れません。

**サムライ**や武士道の支配する国・(恥の文化)日本は、過去の話なのだと思います。もちろん、(**イチロー**のように)今も素晴らしい武士道精神を持った人々もいます。けれども、武士が武士道で庶民を導く世の中は終わっていたのではないのでしょうか。だからこそ、(武士の時代の終わりに際し)明治天皇は教育勅語を記されたのだと思います。

**太宰治**が戦後豹変した人々(社会や風潮)を痛烈に批判したと記憶しています。皆が豹変したのではないからこそ、豹変したことに腹を立てていたはずです。(皆が豹変したのなら、太宰本人も豹変していたはず。腹も立てませんから)そして、多くの人は、時間と共に忘れていったのではないのでしょうか。忘れていったのは、教育勅語(戦前の精神)であり、道徳心であると思います。そのキッカケは、**GHQ**の**WGIP**であり、戦後教育であったと思います。それが、ご紹介の本で、

>「今、街には、自分さえよければいいという人間たちが溢れている。六十年前はそうではなかった。

と、言わしめたのではないのでしょうか。

「日比谷焼き討ち事件」が意味することは、日本人であっても扇動され集団となれば(国家権力に対抗する力を持ち)行動(暴挙?)出来るという証明である気がします。

それは、日本人に底力があることの証明でもあるはずです。

事件、その力を悪とだけ捉える必要はないと思います。

さらには、江戸末期の「ええじゃないか」も同様だと思います。



Commented by **元気 さん**

けれど、どの事件のときも、多くの日本人は冷静であったはずで。

やはり、問題は、今の日本(外国人も多いのです!)に欠けているのは恥や道徳心でしょう。

鳩山首相を見れば一目瞭然の気がします。

それを多くの日本人が支持するとすれば… やはり、世の中がおかしくなっているとしか思えませんね。

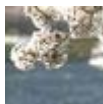
底力。

あるはずなのですが、それを有効に発揮する機会を得ることは難しいと思わずにはいられません。

「ランボー」が出て来ましたので(笑)、

とても示唆に富む最後の作品、

『ランボー 最後の戦場』トラックバックさせていただきます。



Commented by **koku さん**

花うさぎさま

2009/11/01 02:21

>村人たちは陰でわしのことを「あいつは戦犯じゃ」と言っていた。ある日、川の土手を歩いていると、村の子供たちが「戦犯が歩きよる」と言ってわしに向かって石を投げた。

戦後生まれですので、この頃は全然知らないです。でも、戦犯という言葉戦後すぐに使うというのはおかしいと思います。上層部の逮捕がありましたから、広まって使ったのかもしれない。しかし、その村からこの人だけが軍隊に行ったわけでもないでしょうし、戦死した人達もいたはずで、「戦犯」などと言って元軍人を追い出すというのは、普通、考えにくいと思います。戦争に負けたのは軍人がダメだったからだとか思ったのかもしれませんが。

でもですね、軍人の巻き添えになるのを恐れて、60年前に村から追い出すような人達に道徳らしいものがあつたとは思えません。だから今も昔も道徳はないのかも。



nogikuchi さん

>連載等が始まる前から日本人は心変わりしていたのでしょうか？  
心変わりではないと思います。もともと日本人はそのようなものでしょう(=節操がない)。  
勝てば「賠償金をとれ。領土をとれ。まだ少ない」と暴動を起こしますし、負ければ「腹を切れ。恥を知れ」と石を投げ込みます。それが日本人です。

私は全然節操がないとは思えません。  
この頃は、戦争に勝てば賠償金をとるのがあたりまえの時代です。負けたら責任を取れというのもあたりまえです。今のように、政治家や役人がやりたい放題になったのも、国民が責任を追及せず、文句を言ってこなかったからとってます。



Commented by **さらさん**

2009/11/01 04:52

いい作品の紹介ありがとうございました。NHK教育で放送中の獣の奏者エリン(原作上橋菜穂子)というアニメがあるんですが昨日の放送でこんな場面が…。同じ民族同士の富も名誉も手に入れた人達が国のために戦っている人達を蔑んでみると…私は思わず今の日本の現状や～とってしまいました。いろんなアニメ漫画があるんですが、ぐさっと心に突き刺さるものもあり日本のエンターテインメントは本当にすごいです。少し話がずれてすみませんでした。



Commented by **siseinotamikusa さん**

2009/11/01 05:11

花うさぎさんこんにちは…

「永遠のゼロ」と同じなのが「**A級戦犯**」ですね。**米国**は騎士道も武士道もないと、いろんな人が語っていますが、敗者には過酷な処罰をして名誉まで葬るとは、人倫の道にももとの行為だと思いますね。

そんな米国の虎の威光をかさに切るのが、**中国**や韓国で日本国内じゃ朝日新聞や毎日新聞ですか…

日本の為に戦死した人をまるで汚いもののように扱う日本のマスコミや**民主党**その他政党…

俺はポッポ首相が**靖国神社**が戦死者の慰霊にふさわしくないので新しい戦没者の慰霊施設を作るとかのたまうとか言った時に「こいつどこの国の人間じゃ？」と怒りを禁じえない。

このポッポや菅には米国の指定した**A級戦犯**だから合祀してる**靖国神社**が悪いという理屈しかないらしい…

じゃ**民主党**幹部や朝日新聞に聞くが、原爆を投下して無辜の民を何百万人も殺戮した米国のトルーマン大統領や指揮した將軍将校は何級戦犯なんだ？

もちろん、お前ら**民主党**幹部や朝日新聞は**米国**にそいつらが眠るアリントン墓地について政治家が慰霊に行くの反対したんだろうな…

偉そうに**自民党**の小泉首相が**靖国神社**の参拝を咎めるなら、米国の過去の悪行について咎めてから**モノ**申せと言いたい…



Commented by **花うさぎ さん**

2009/11/01 07:48

To 元気さん おはようございます。

>日本人であっても、と考えてはいかがでしょうか。

はい、それが普通の見方でしょう。

>どの事件のときも、多くの日本人は冷静であったはずです。

国益という視点からはもっと「怒れ！」と思うこともありますけどね(^ ^;)。

2009/11/01 07:53

>やはり、問題は、今の日本(外国人も多いのです!)に欠けているのは恥や道徳心でしょう。

全く同感です。

>それを多くの日本人が支持するとすれば… やはり、世の中がおかしくなっているとしか思えませんね。

まずは判断する前提となる「事実」の情報が伝わらないのでどうにもなりません。ネットで頑張らねば。

>『ランボー 最後の戦場』トラックバックさせていただきます。

どうもありがとうございます。



Commented by **花うさぎ** さん

To kokuさん おはようございます。

>でも、戦犯という言葉は戦後すぐに使うというのはおかしいと思います。

はい。私もここに違和感を感じました。まあ小説ですから作者の脚色でしょうけど。

>でもですね、軍人の巻き添えになるのを恐れて、60年前に村から追い出すような人達に道徳らしいものがあつたとは思えません。

本当にこの部分が引っかかりますね。それも含めて日本人、とすることなのでしょうけど。



Commented by **花うさぎ** さん

To さらさん おはようございます。

>…私は思わず今の日本の現状や~と忘れてしまいました。

本当に今の日本は憂うべき状況にありますね。

>日本のエンターテイメントは本当にすごいです。

世界のアニメと日本のそれは表現力の違いが明確ですね。だから世界中で人気があるのだと思います(^ ^)。



Commented by **花うさぎ** さん

To siseinotamikusaさん おはようございます。

>このポップや菅には米国の指定したA級戦犯だから合祀してる靖国神社が悪いという理屈しかないらしい…

少しは日本の歴史と戦後の政治を勉強して欲しいです。政府の立場は「日本にはA級戦犯などいない」ということなんですが。

>米国の過去の悪行について咎めてからモノ申せと言いたい…

これは絶対に決着付けないといけません。「世界は腹黒い」のに日本だけがバカ正直で富を一方的に搾取されっぱなしですから。



Commented by **元気** さん

お久しぶりです。こんばんは！

2年も前の記事ですが、今さらですが… 失礼します。

今日、『永遠のゼロ』について、友人のブログで核心をつく感想を読みました。ご参考に。

ちなみに、私は、『永遠のゼロ』まだ読んでおりません。

2009/11/01 07:57

2009/11/01 08:01

2011/08/09 22:04

----- (以下、抜粋)

私は本が大好きで、  
本の中の思想はひとまず置いておいて、  
純粋にトリックを楽しむ、娯楽として読んでいます。

が、、、  
この本は途中で止めました。

題名の通り、  
「零戦」に乗られた方の話で、戦争の事を取り上げた内容なのですが、  
作者は物凄く勉強をされていて、その知識に対する情熱は尊敬に値するものでしたが、  
私は途中から「違う」と感じ、この本の思想を「ひとまず置く」ことが出来なくなりました。

私なりに「どうしてだろう?」と考えた結果、

その大きな理由の一つに上がったのが、「靖国」が出ていない事、でした。

主要参考文献にも、靖国関連のものはありませんでした。

その本を読んで感じた違和感は、  
まるで「外国人」が書いている様な本だなあ、、、  
という感覚に近いです。

「なぜ靖国なのか」を感じ取る事が出来なければ、

「なぜ特攻なのか」も真に理解出来ない気がします。

-----  
私の別のネットでの友人で、「靖国」を踏み絵にしている方がいらっしやることを思い出しました。

なるほど、「靖国」の出でこない戦中戦後の話は、そのように読まねばなりません。

ちなみに、私の踏み絵は、「[日本国憲法](#)」です。  
こういう感覚は、もしかすると、女性特有の感覚(嗅覚?)かも知れません。



Commented by [花うさぎ](#) さん

2011/08/10 07:38

To 元気さん おはようございます。

ご無沙汰です。二年も前のエントリーにありがとうございます。

>その大きな理由の一つに上がったのが、「靖国」が出ていない事、でした。

おお～、この方は鋭いですね。

というか、文章に中にも度々出てくるのですが、この作家はおそらく大東亜戦争を否定的に見ている論調で一貫していますので、左翼とは言えないまでも保守ではないと思っていました。

ただ、創作小説としては実に構成が見事で、読ませるのですね～。

>「なぜ靖国なのか」を感じ取る事が出来なければ、  
>「なぜ特攻なのか」も真に理解出来ない気がします。

この方は頼もしい保守・日本軍ですね。そうですか、「踏み絵」というのはなるほど思いました。

わざわざのコメント、ありがとうございました(--)